

図 B-20. 在宅終末期医療の充実

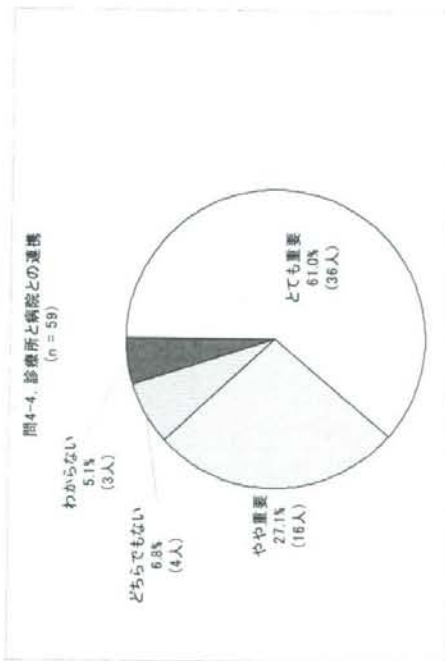


図 B-21. 在宅終末期医療の充実

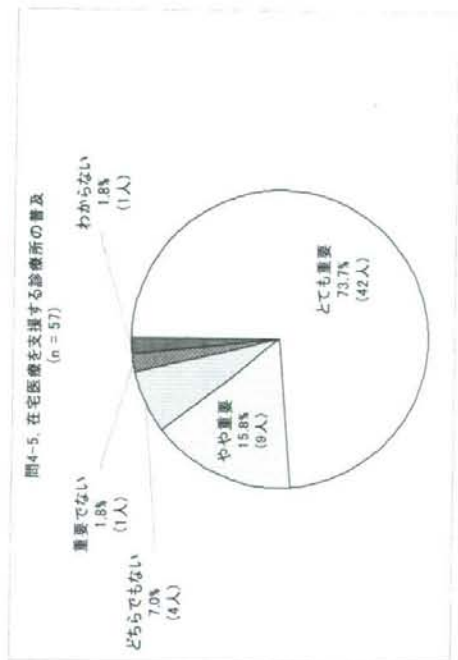


図 B-22. 在宅終末期医療の充実

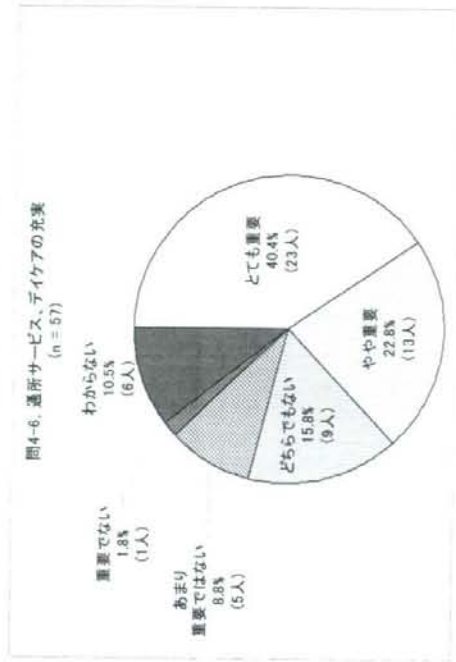


図 B-23. 在宅終末期医療の充実

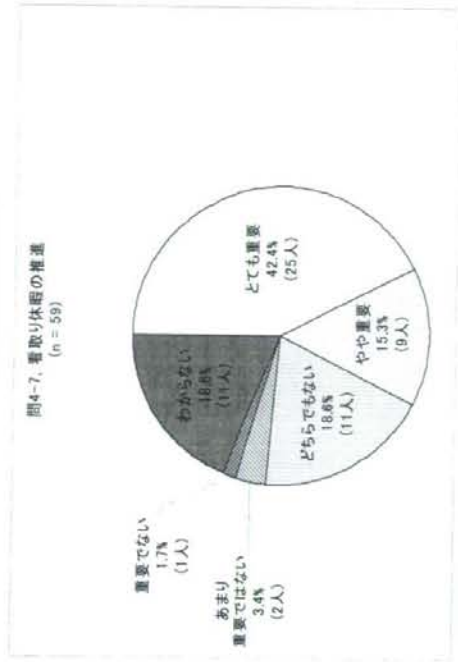


図 B-24. 在宅終末期医療の充実

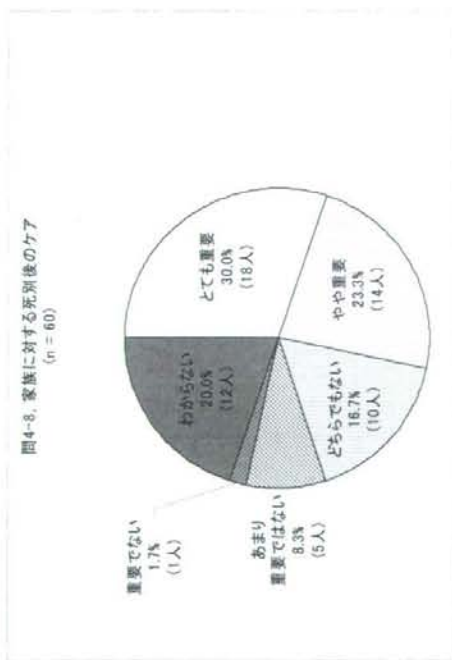


図 B-26. 在宅終末期医療の普及

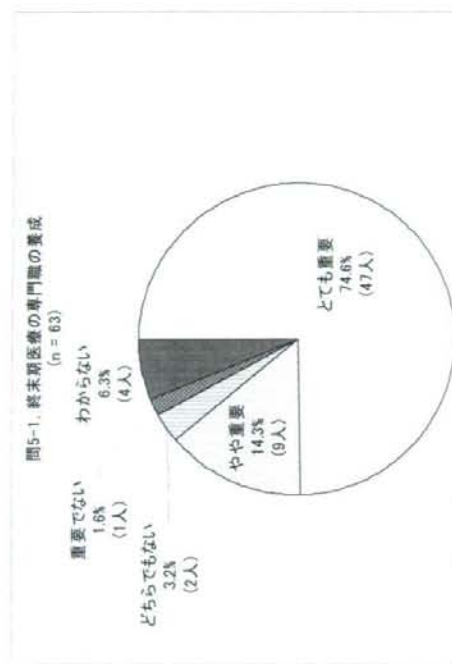


図 B-25. 在宅終末期医療の普及

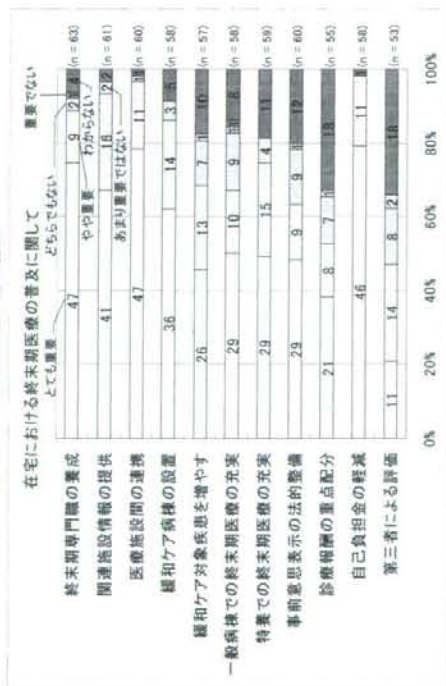


図 B-27. 在宅終末期医療の普及

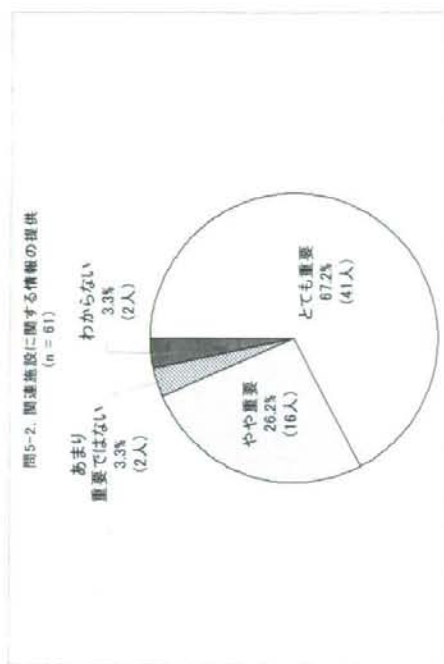


図 B-28. 在宅終末期医療の普及

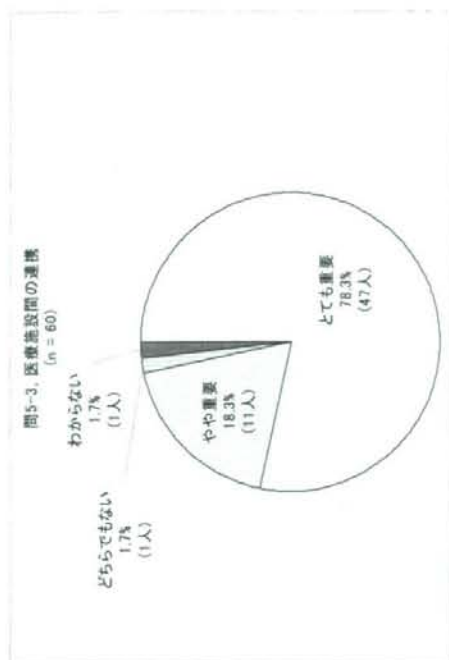


図 B-30. 在宅終末期医療の普及

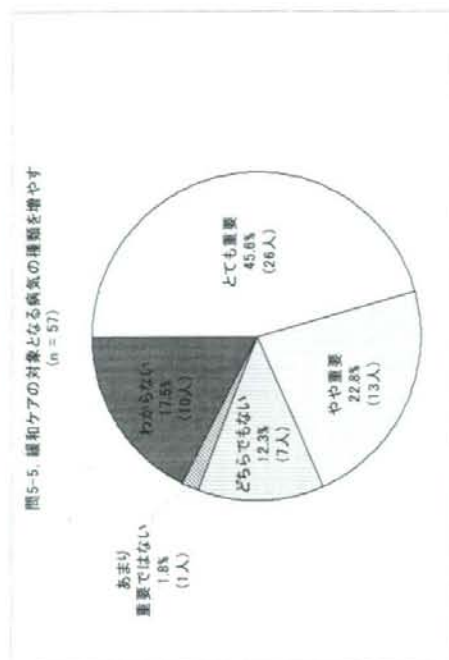


図 B-29. 在宅終末期医療の普及

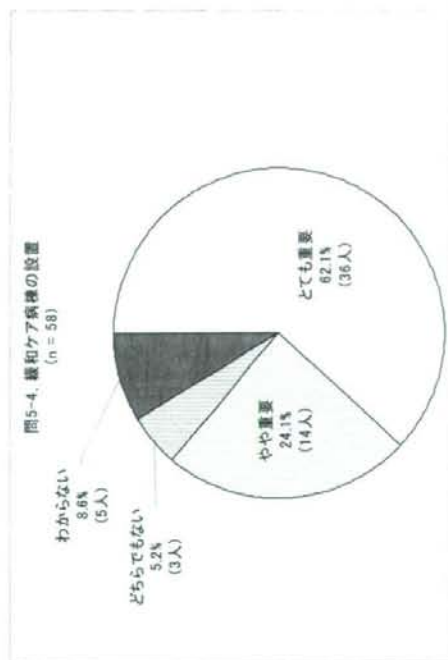


図 B-31. 在宅終末期医療の普及

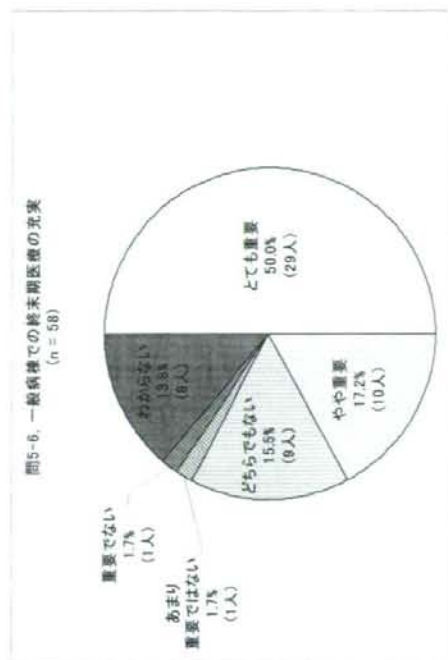


図 B-32. 在宅終末期医療の普及

問5-7. 特別養護老人ホームでの終末期医療の充実
(n = 59)

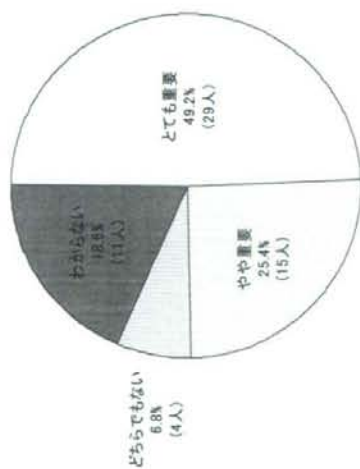


図 B-34. 在宅終末期医療の普及

問5-9. 診療報酬の重点配分
(n = 55)

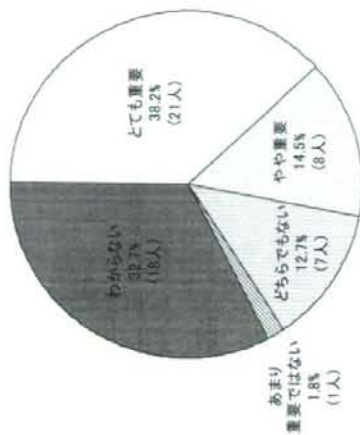


図 B-33. 在宅終末期医療の普及

問5-8. 事前の意思表示の法的な整備
(n = 60)

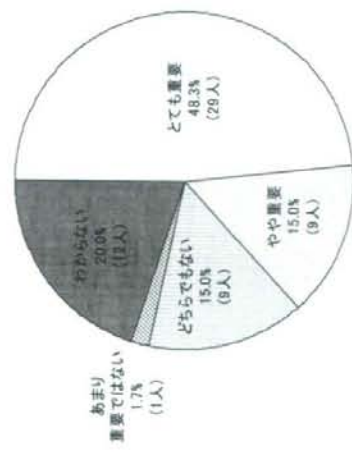


図 B-35. 在宅終末期医療の普及

問5-10. 自己負担金の軽減
(n = 58)

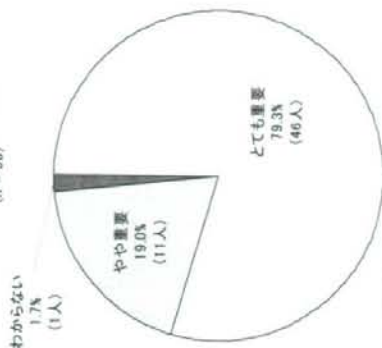


図 B-36. 在宅終末期医療の普及

問5-11. 第三者による評定
(n = 53)

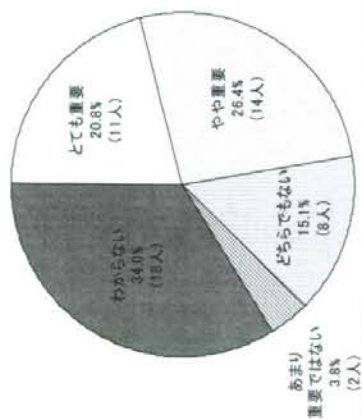


図 B-37. 治療の中止

問6. 終末期医療における治療の中止について、
わが国ではどう扱われるのが適切か
(n = 59)

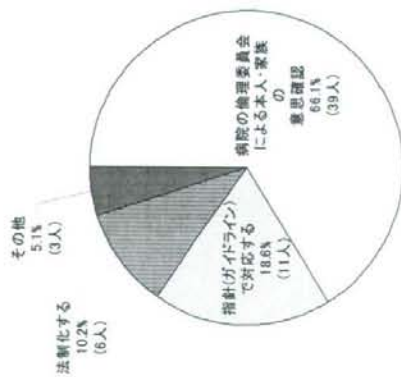


図 B-38. QOLの変化、身体症状

問7. 身体症状について - 「体に力が入らない感じがする」の変化

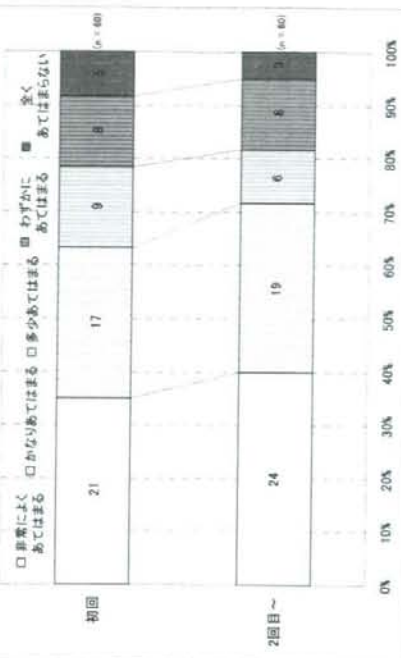


図 B-39. QOLの変化、身体症状

問7. 身体症状について - 「社会生活がする」の変化

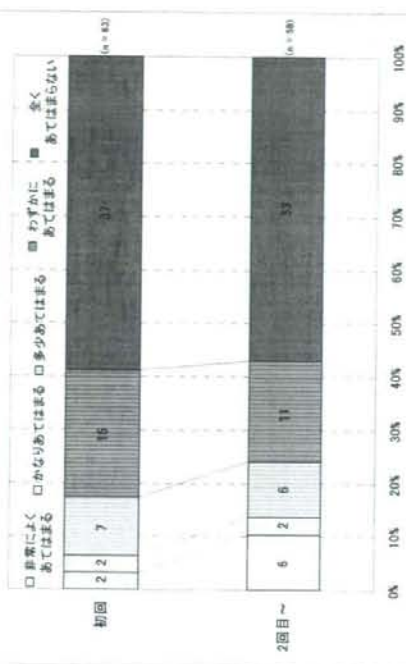


図 B-40. QOL の変化、身体症状

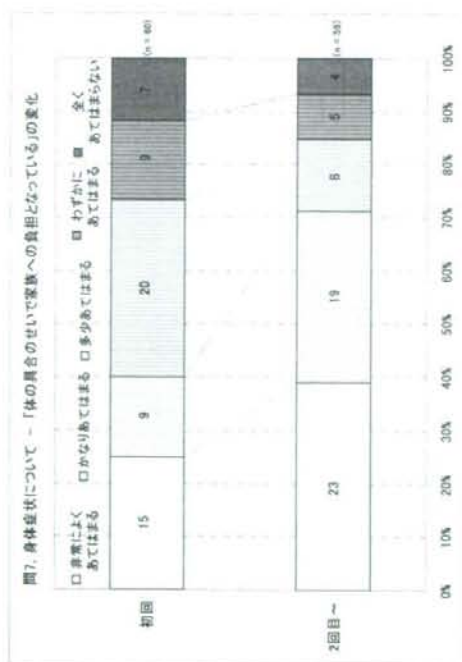


図 B-42. QOL の変化、身体症状

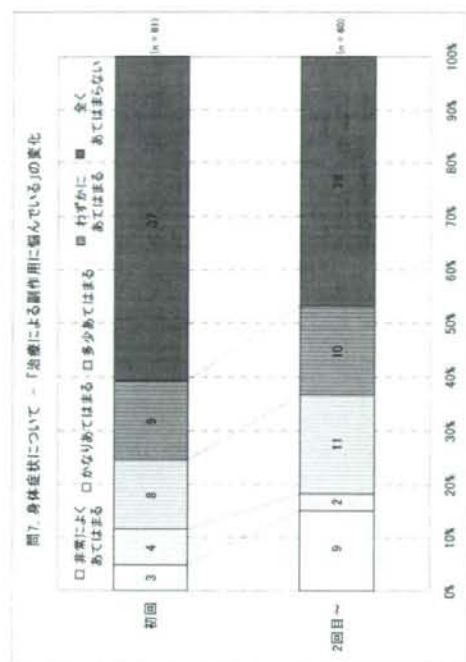


図 B-41. QOL の変化、身体症状

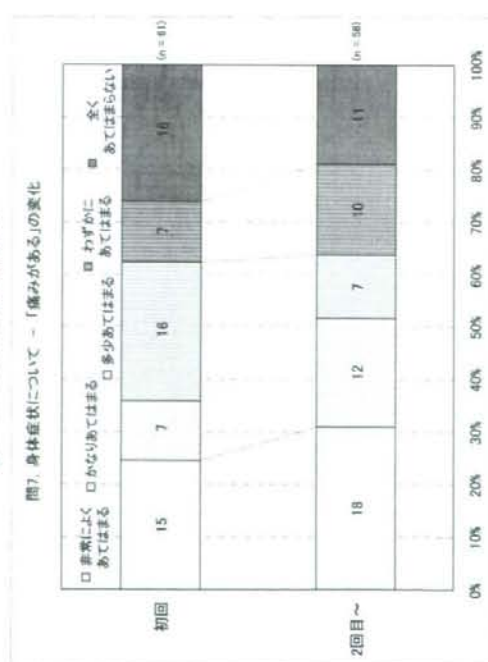


図 B-43. QOL の変化、身体症状

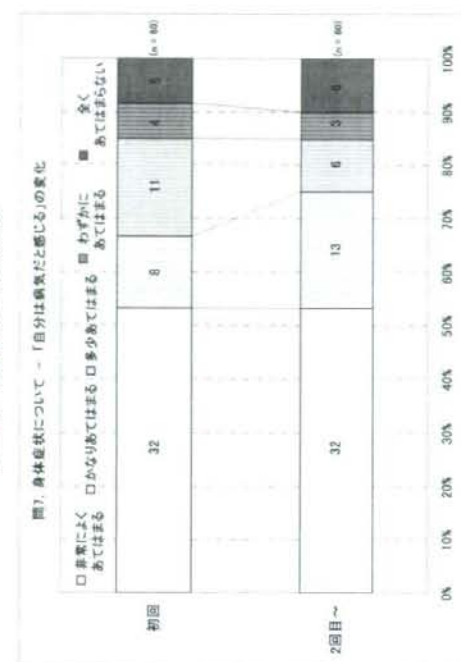


図 B-44. QOL の変化、身体症状

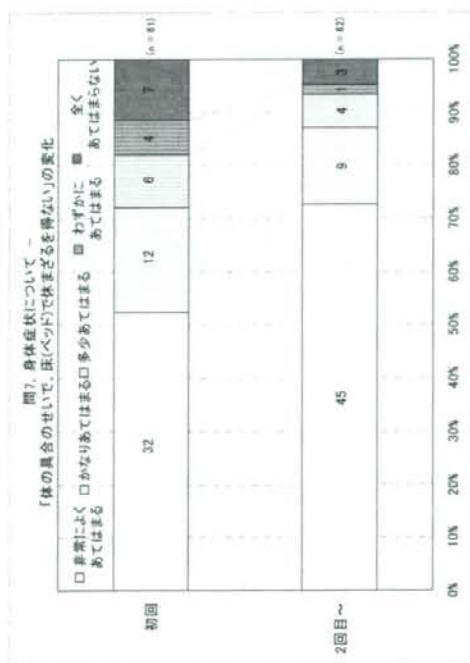


図 B-46. QOL の変化、社会的・家族的・家族との関係

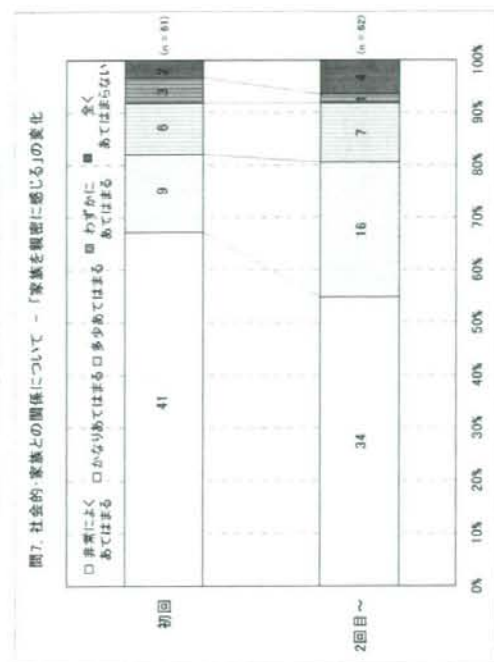


図 B-45. QOL の変化、社会的・家族的・家族との関係

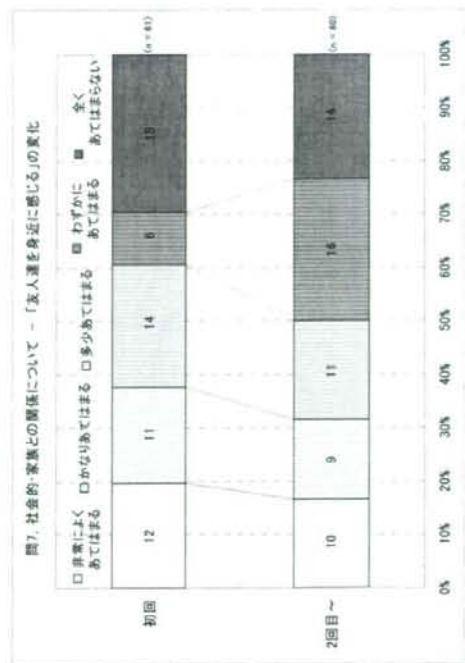


図 B-47. QOL の変化、社会的・家族的・家族との関係

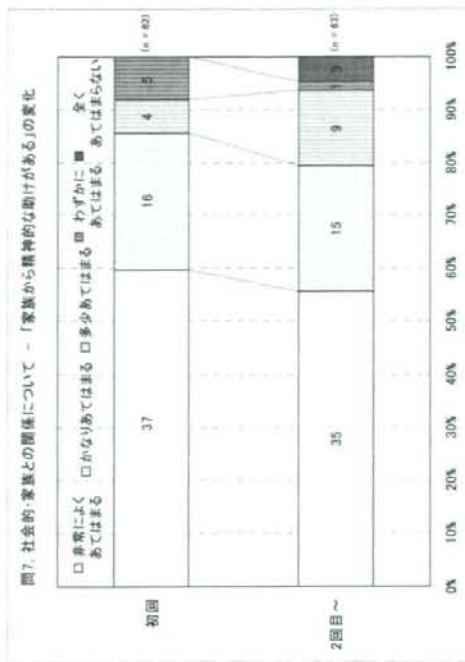


図 B-48. QOLの変化、社会的・家族との関係

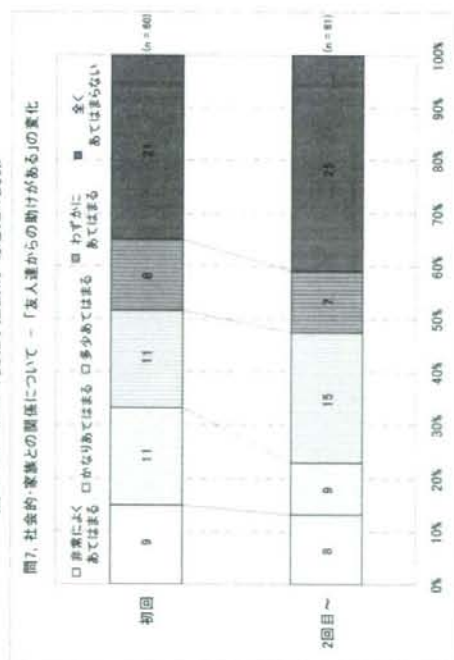


図 B-50. QOLの変化、社会的・家族との関係

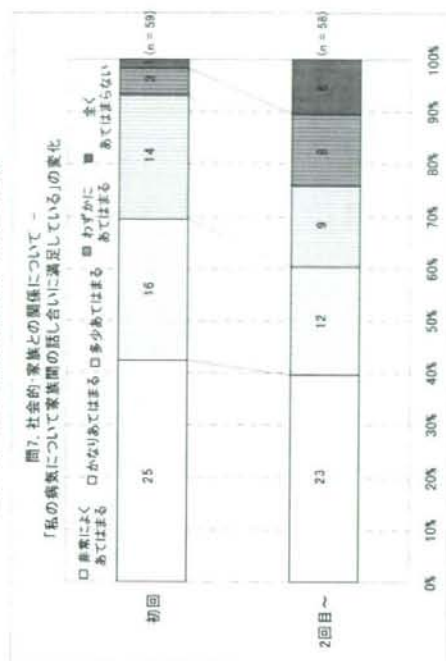


図 B-49. QOLの変化、社会的・家族との関係



図 B-51. QOLの変化、社会的・家族との関係

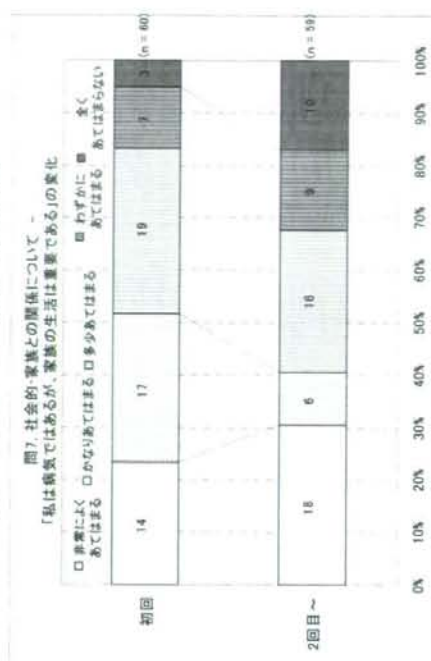


図 B-52. QOL の変化、社会的・家族との関係



図 B-53. QOL の変化、精神状態

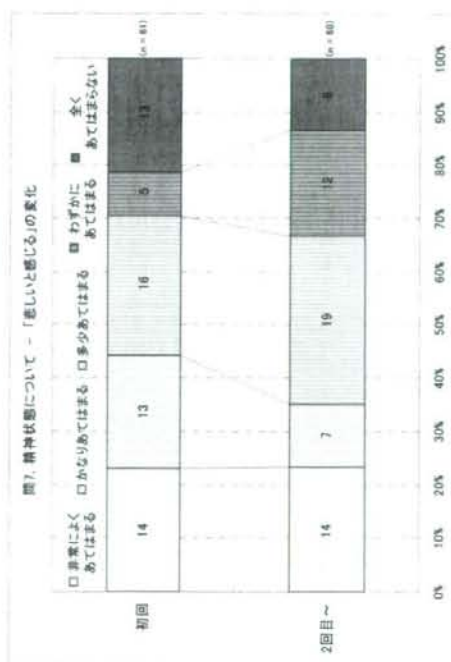


図 B-54. QOL の変化、精神状態

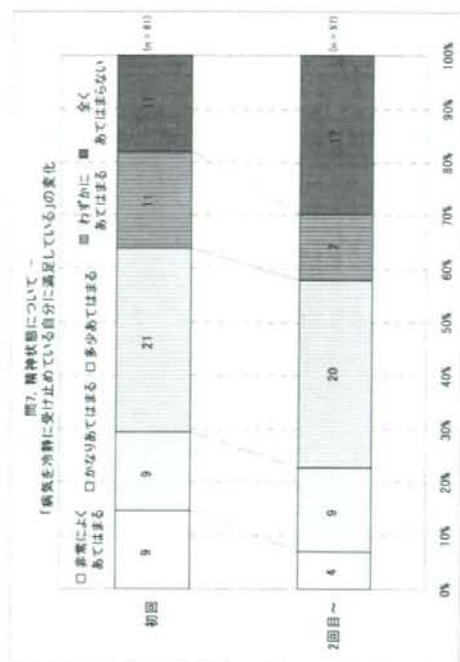


図 B-55. QOL の変化、精神状態

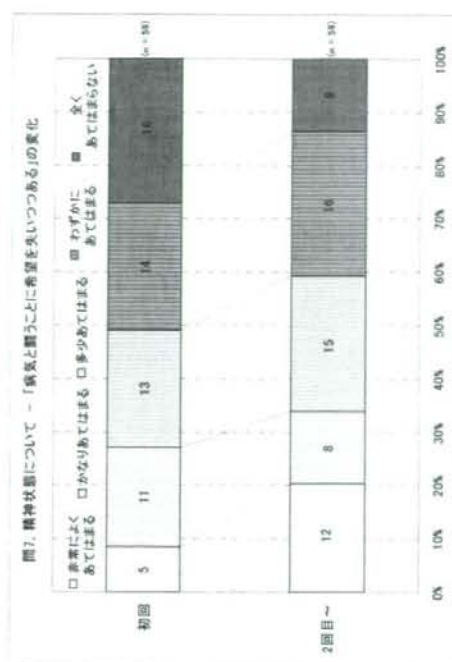


図 B-56. QOL の変化、精神状態

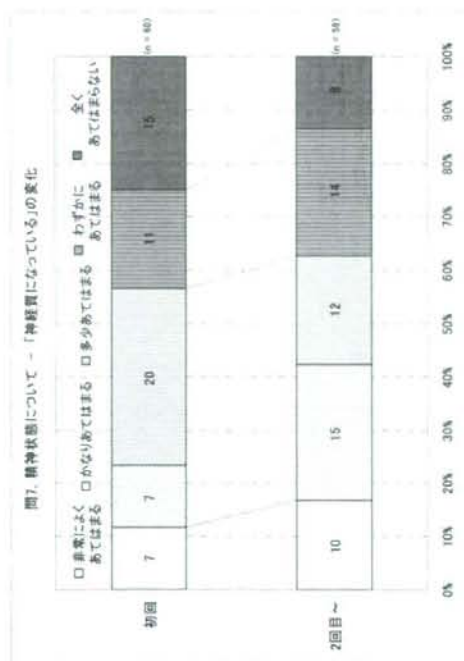


図 B-58. QOL の変化、精神状態

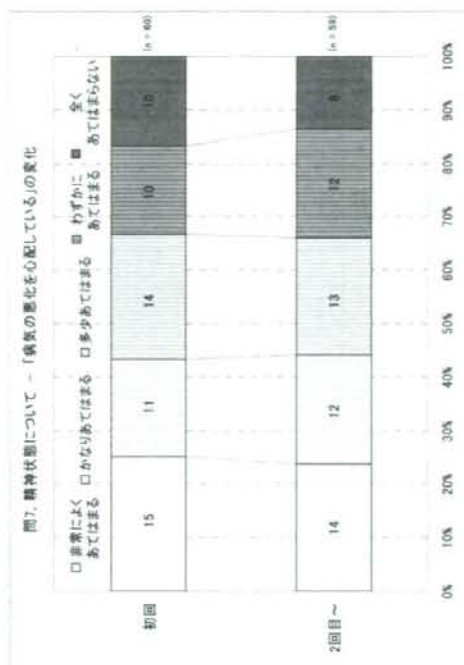


図 B-57. QOL の変化、精神状態

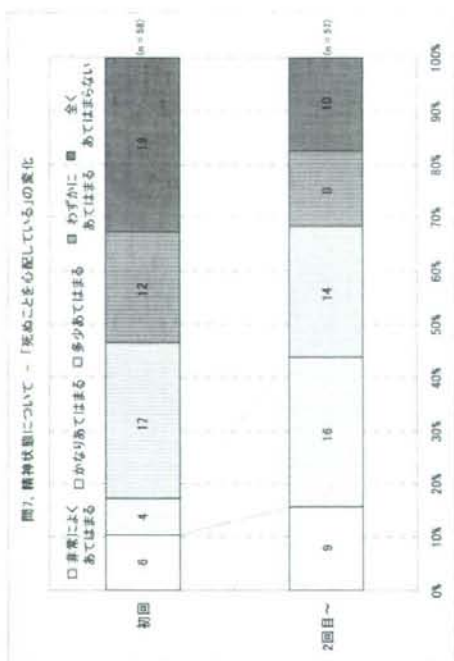


図 B-59. QOL の変化、活動状況

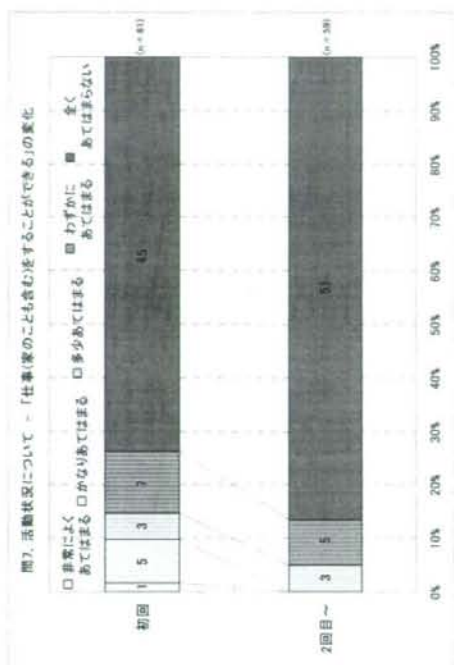


図 B-60. QOL の変化、活動状況

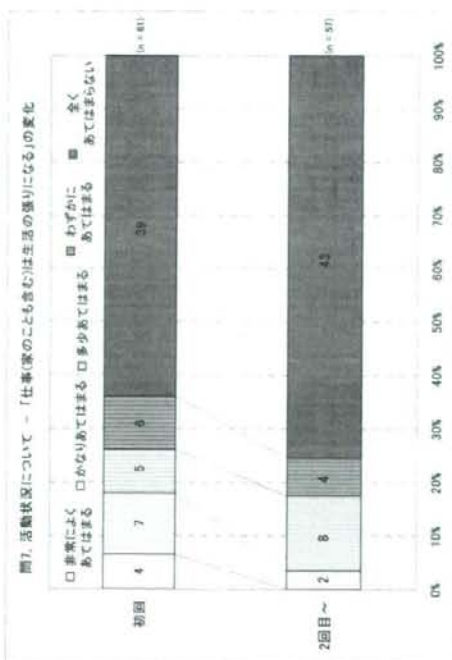


図 B-62. QOL の変化、活動状況

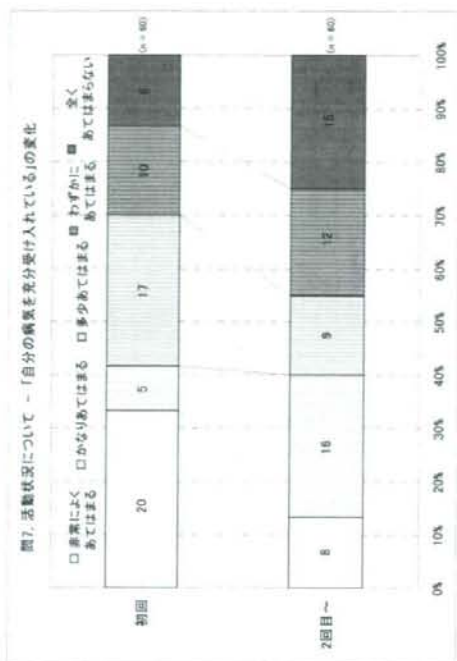


図 B-61. QOL の変化、活動状況

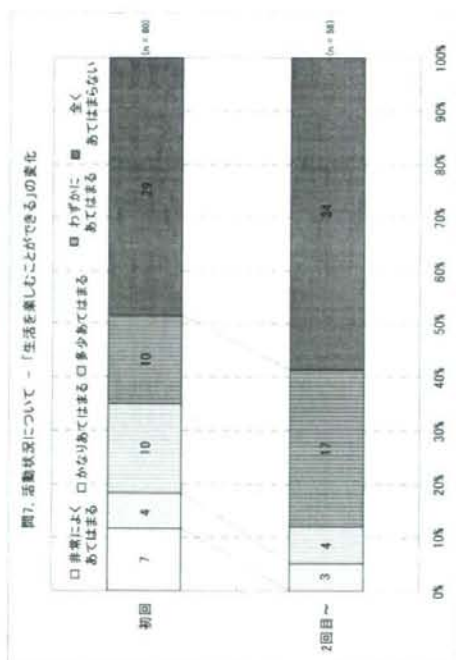


図 B-63. QOL の変化、活動状況

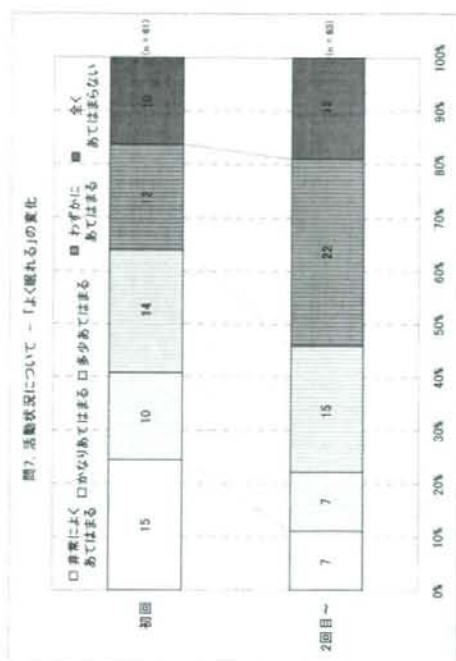


図 B-64. QOL の変化、活動状況

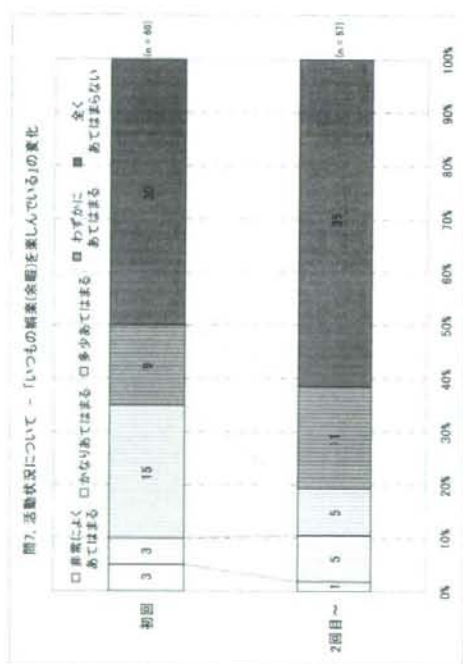


図 B-66. QOL の変化、その他心配な点

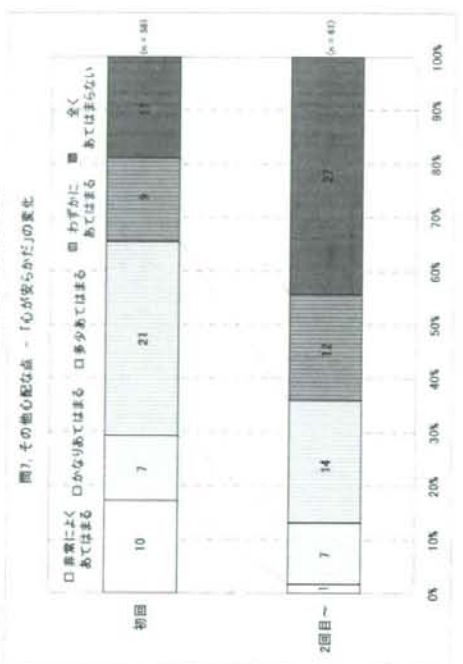


図 B-65. QOL の変化、活動状況

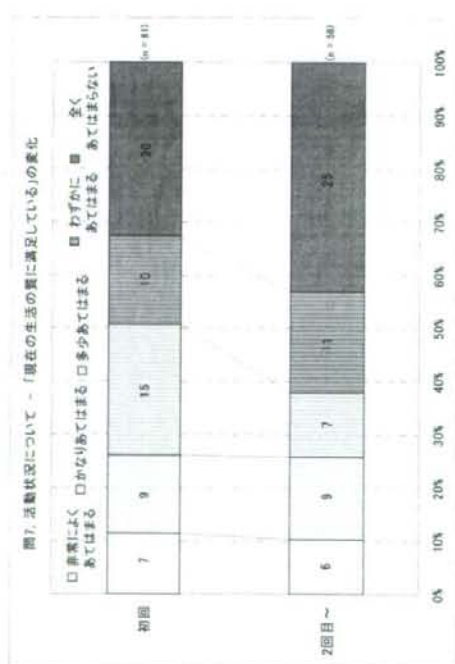


図 B-67. QOL の変化、その他心配な点

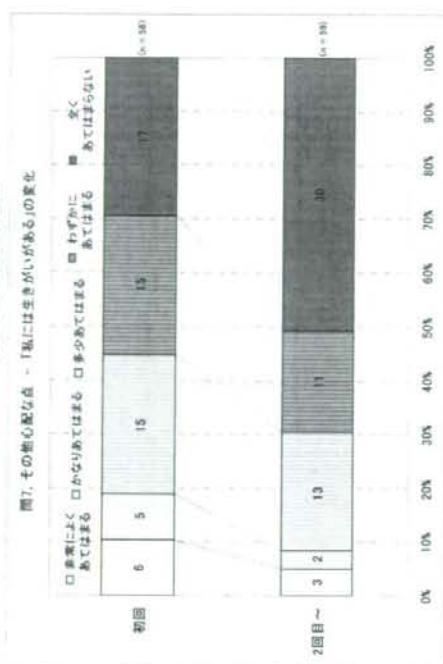


図 B-68. QOL の変化、その他心配な点

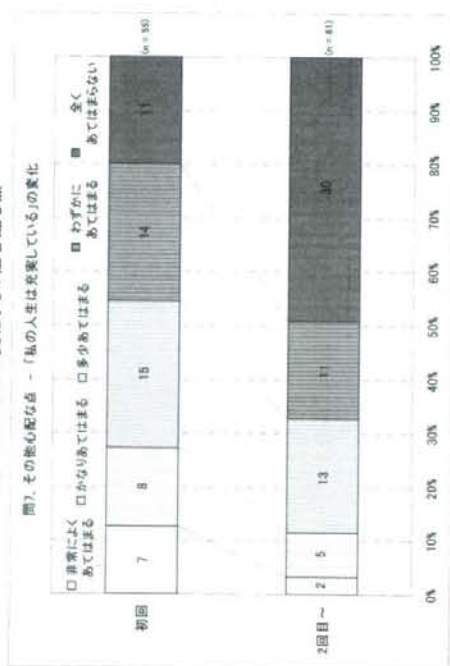


図 B-69. QOL の変化、その他心配な点

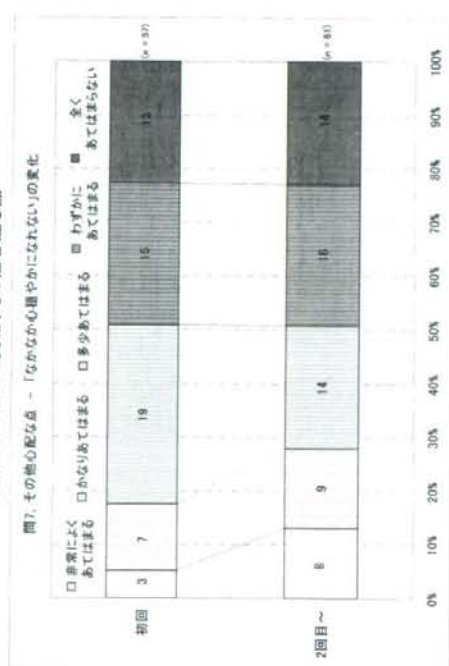


図 B-70. QOL の変化、その他心配な点

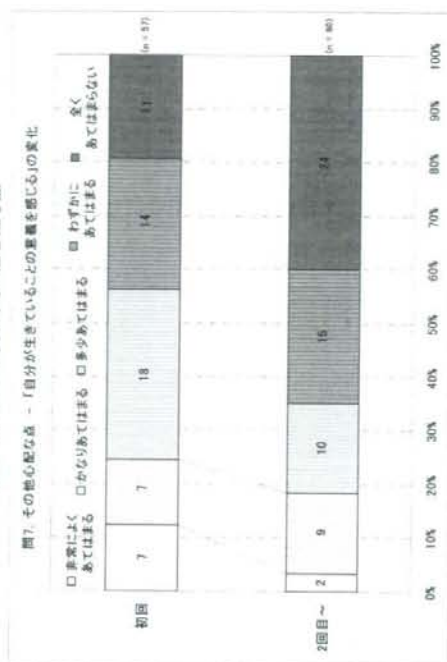


図 B-71. QOL の変化、その他心配な点

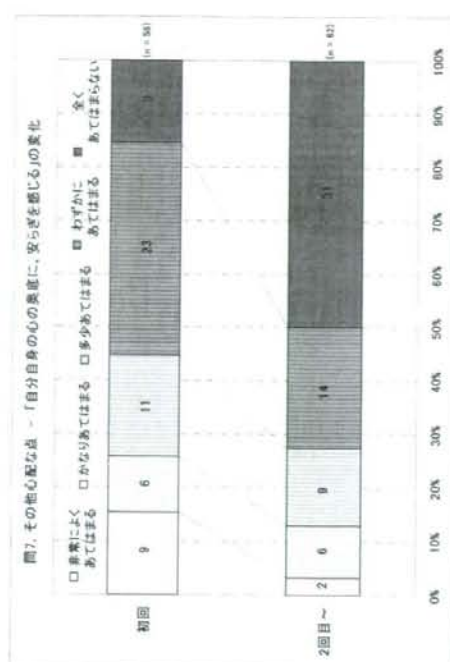


図 B-72. QOL の変化、その他心配な点

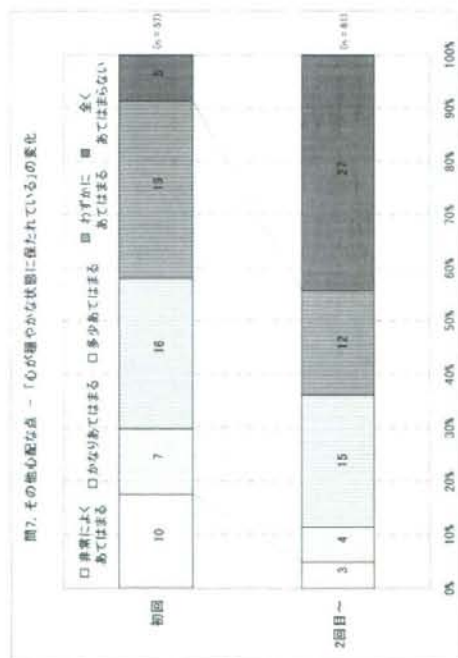


図 B-74. QOL の変化、その他心配な点

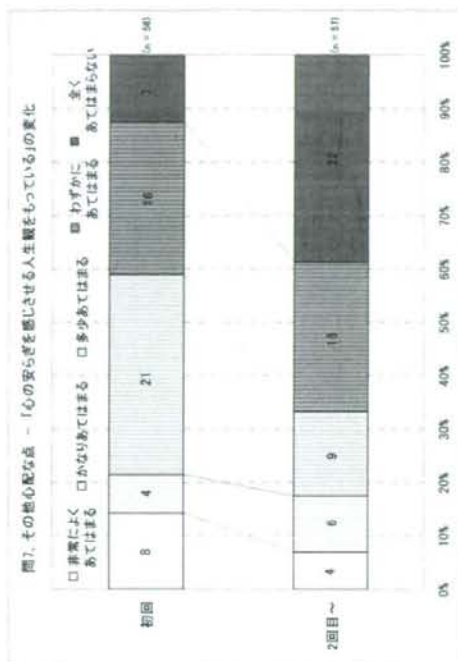


図 B-73. QOL の変化、その他心配な点

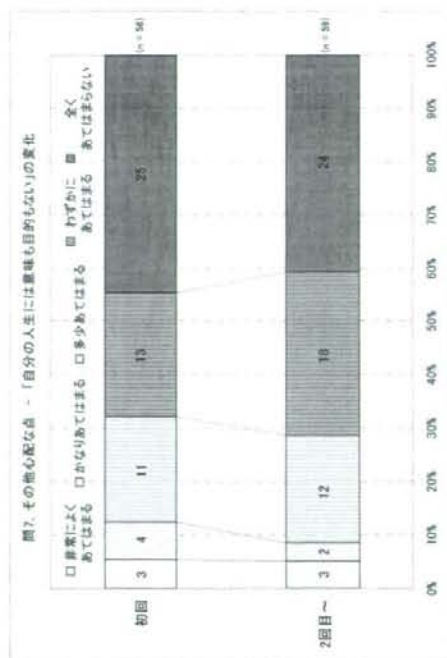


図 B-75. QOL の変化、その他心配な点

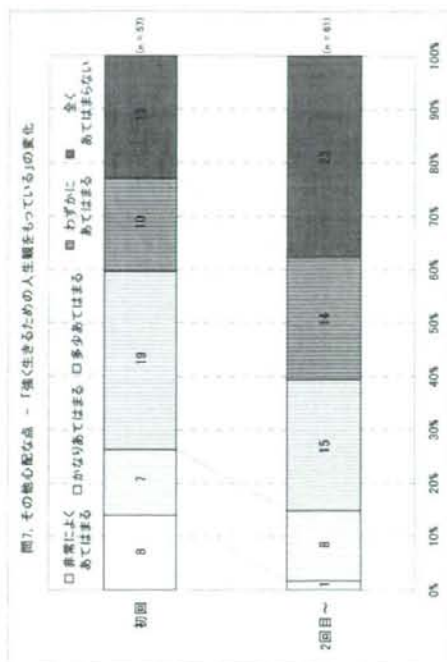


図 B-76. QOL の変化、その他心配な点

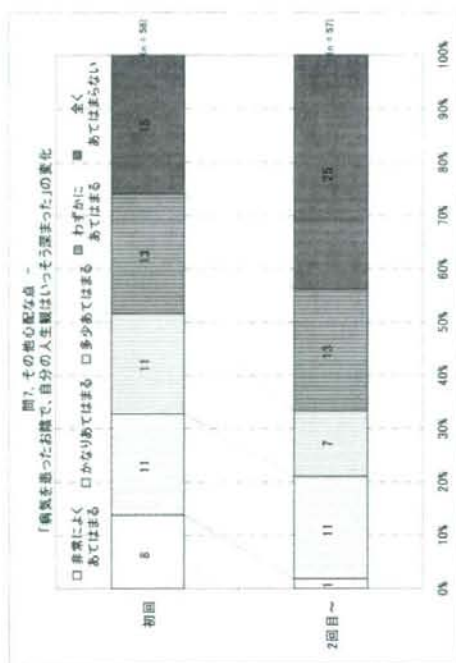
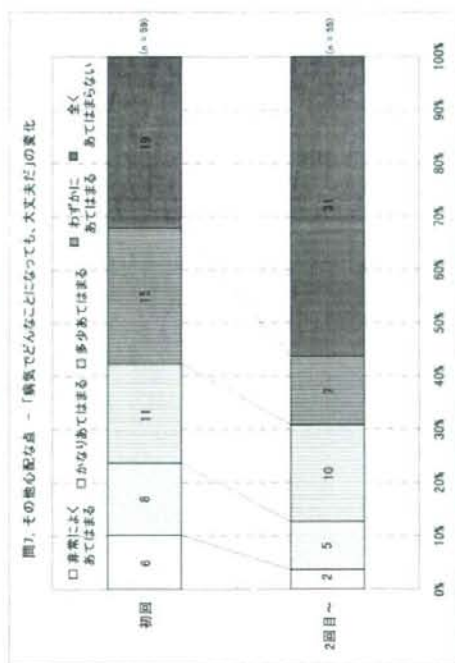
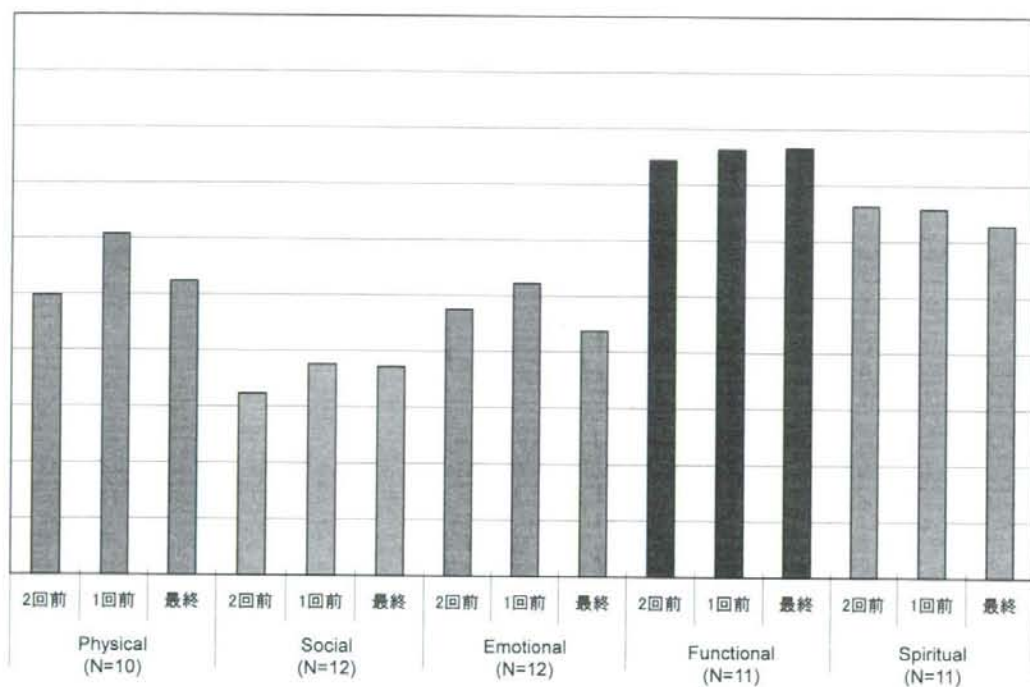


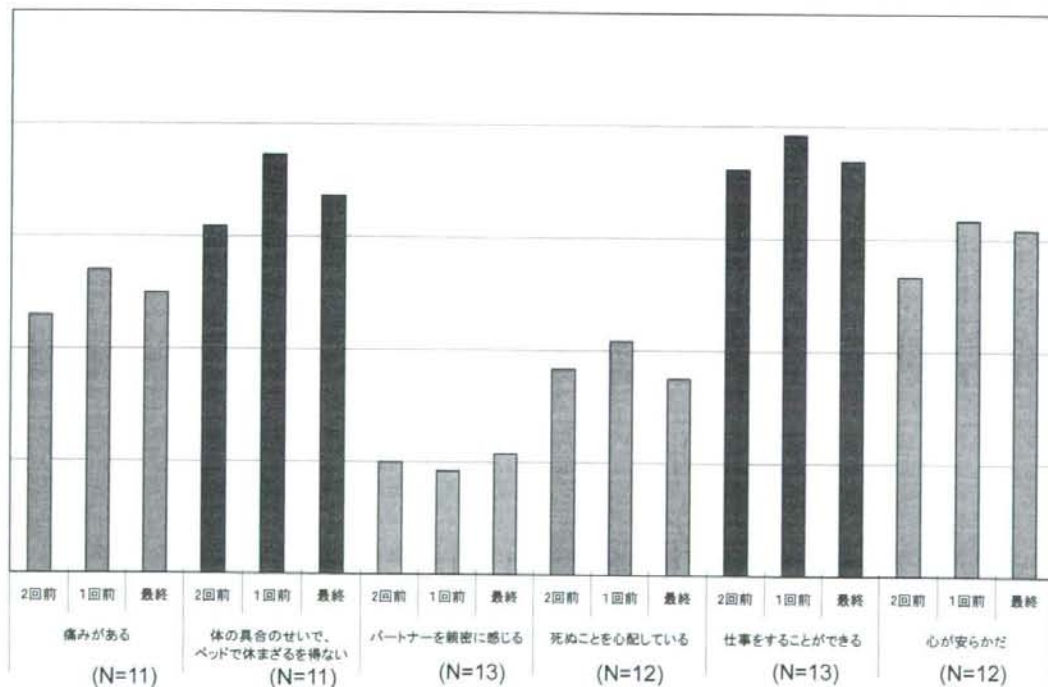
図 B-77. QOL の変化、その他心配な点



図B-78. 死亡からさかのぼったFACIT-Spの時系列変化



図B-79. 死亡からさかのぼったFACIT-Sp(単項目)の時系列変化



ご本人様

平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業
 「利用者の視点に立った終末期医療と在宅医療のあり方とその普及に関する研究」

主任研究者 濃沼 信夫 (東北大学 教授)
 分担研究者 蘆野 吉和 (十和田市立中央病院)
 有賀 悦子 (国立国際医療センター)
 川島孝一郎 (仙台往診クリニック)
 英 裕雄 (新宿ヒロクリニック)
 本家 好文 (県立広島病院)
 和田 忠志 (あおぞら診療所新松戸)

アンケートご協力のお願い

【アンケートのねらい】

本アンケートは、利用者の視点に立った施設における医療のあり方とその普及・促進のための基礎資料を得ることを目的としています。個人情報保護法、疫学研究の倫理指針などに従い、プライバシー保護を徹底いたします。本研究は、東北大学医学部倫理委員会の承認を得て実施しております。

【アンケートの方法】

1. お名前をお書きいただく必要はありません。
2. ご本人の記入が難しい場合は、代理の方がご記入ください。設問によっては、気分を害されたり、つらいお気持ちになる場合もあるかと存じますが、何卒お許しください。
3. 調査にご協力いただかない場合でも、今後の療養に関し、不利益が生じることはありません。
4. この用紙は封筒に入れ密封し、施設の担当職員へお渡しください。

この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

<お問合せ先>

〒 980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1
 東北大学大学院 医学系研究科 医療管理学分野
 伊藤道哉、金子さゆり、三澤仁平、尾形俊明、門馬靖武
 TEL: 022-717-8128 FAX: 022-717-8130

あてはまる項目に○、またはご記入ください

問1 ここに入られた主な理由は何ですか (○は2つまで)

- 1 前から決めていた
- 2 家族にすすめられて
- 3 必要な医療が受けられる
- 4 病院での治療が済んだ
- 5 ここで最期をむかえたい
- 6 家族に迷惑をかけたくない
- 7 身内や友人がそうしていた
- 8 経済的な問題
- 9 その他 ()

問2 医師や担当職員から説明がありましたか

ここでの医療サービス	1 十分な説明を受けた	3 説明はなかった
状態が急に 変化した時の対応	2 説明を受けたが、わからなかった	4 覚えていない
初期のむかえ方	1 十分な説明を受けた	3 説明はなかった
費用	2 説明を受けたが、わからなかった	4 覚えていない
	1 十分な説明を受けた	3 説明はなかった
	2 説明を受けたが、わからなかった	4 覚えていない

問3 最期をむかえる理想の場所はどちらですか (国の調査に準じた質問です)

- 1 医療機関 (病院・診療所など)
- 2 医療機関以外の施設 (老人ホームなど)
- 3 自宅
- 4 特に希望はない
- 5 決めかねている
- 6 その他 ()

その主な理由は何ですか (○は2つまで)

- 1 前から決めていた
- 2 必要な医療が受けられる
- 3 最期まで面倒をみてもらえる
- 4 家族との時間を多く持ちたい
- 5 家族に迷惑をかけたくない
- 6 身内や友人がそうしていた
- 7 住み慣れたところですごしたい
- 8 経済的な問題
- 9 その他 ()

問4 ご自身について

年齢	歳	性別	男	女	記入者	ご本人	ご家族	担当職員
----	---	----	---	---	-----	-----	-----	------

ご協力ありがとうございます

ご家族様

平成20年度厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業
 【利用者の視点に立った終末期医療と在宅医療のあり方とその普及に関する研究】

主任研究者 遠沼 信夫 (東北大学 教授)
 分担研究者 蘆野 吉和 (十和田市立中央病院)
 有賀 悦子 (国立国際医療センター)
 川島孝一郎 (仙台往診クリニック)
 英 裕雄 (新宿ヒロクリニック)
 本家 好文 (黒立広島病院)
 和田 志志 (あおぞら診療所新松戸)

アンケートご協力をお願い

【アンケートのねらい】

本アンケートは、利用者の視点に立った施設における医療のあり方とその普及・促進のための基礎資料を得ることを目的としています。個人情報保護法、疫学研究の倫理指針などに従い、プライバシー保護を徹底いたします。本研究は、東北大学医学部倫理委員会の承認を得て実施しております。

【アンケートの方法】

1. お名前をお書きいただく必要はありません。
2. ご家族の方がご記入ください。
3. ご本人とは相談せずにご記入ください。設問によっては、気分を害されたり、つらいお気持ちになる場合もあるかと存じますが、何卒お許しください。
4. 調査にご協力いただかない場合でも、今後の療養に関し、不利益が生じることはありません。
5. この用紙は封筒に入れ密封し、施設の担当職員へお渡しください。

この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

<お問合せ先>

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1
 東北大学大学院 医学系研究科 医療管理学分野
 伊藤直哉、金子さゆり、三澤仁平、尾形倫明、門馬靖武
 TEL: 022-717-8128 FAX: 022-717-8130

あてはまる項目に○、またはご記入ください

問1 この施設を選んだ主な理由 (○は2つまで)

- 1 利用者ご本人が前から決めていた
- 2 家族で決めた
- 3 必要な医療が受けられる
- 4 病院での治療が済んだ
- 5 最期まで面倒をみてもらえる
- 6 家族では介護ができない
- 7 身内や友人がそうしていた
- 8 経済的な問題
- 9 その他 ()

問2 医師や担当職員から説明がありましたか

この施設における 医療サービス	1 十分な説明を受けた	3 説明はなかった
	2 説明を受けたが、わからなかった	4 覚えていない
状態が急に 変化した時の対応	1 十分な説明を受けた	3 説明はなかった
	2 説明を受けたが、わからなかった	4 覚えていない
最期のむかえ方	1 十分な説明を受けた	3 説明はなかった
	2 説明を受けたが、わからなかった	4 覚えていない
費用	1 十分な説明を受けた	3 説明はなかった
	2 説明を受けたが、わからなかった	4 覚えていない

問3 ご家族からみて、ご本人が最期をむかえる理想の場所はどこだと思いますか
 (国の調査に準じた質問です)

- 1 医療機関 (病院・診療所など)
- 2 医療機関以外の施設 (老人ホームなど)
- 3 自宅
- 4 特に希望はない
- 5 決めかねている
- 6 その他 ()

その主な理由は何ですか (○は2つまで)

- 1 利用者ご本人が前から決めていた
- 2 必要な医療が受けられる
- 3 最期まで面倒をみてもらえる
- 4 家族との時間を多く持ちたい
- 5 家族では介護ができない
- 6 身内や友人がそうしていた
- 7 住み慣れたところで過ごさせたい
- 8 経済的な問題
- 9 その他 ()

問4 記入者ご自身について

年齢	歳	性別	男	女	ご本人との続柄

ご協力ありがとうございます

担当医職

平成20年度厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業
 「利用者の視点に立った終末期医療と在宅医療のあり方とその普及に関する研究」

- 主任研究者 瀧沼 信夫 (東北大学 教授)
 分担研究者 蘆野 吉和 (十和田市立中央病院)
 有賀 悦子 (国立国際医療センター)
 川島孝一郎 (仙台往診クリニック)
 英 裕雄 (新宿ヒロクリニック)
 本家 好文 (県立広島病院)
 和田 忠志 (あおぞら診療所新松戸)

アンケートご協力をお願い

【アンケートのねらい】

本アンケートは、利用者の視点に立った施設における医療のあり方とその普及・促進のための基礎資料を得ることを目的としています。

個人情報保護法、疫学研究の倫理指針などに従い、プライバシー保護を徹底いたします。

本研究は、東北大学医学部倫理委員会の承認を得て実施しております。

【返送の仕方】

同封の返信用封筒をもちいて、事務局までご返送ください。

この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

<お問合せ先>

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1
 東北大学大学院 医学系研究科 医療管理学分野
 伊藤道哉、金子さゆり、三澤仁平、尾形倫明、門馬靖武
 TEL: 022-717-8128 FAX: 022-717-8130

訪問先の施設名

調査者の性・年齢	性別	年齢	職業	居住形態	在宅医療の有無	要介護度	日常生活自立度判定基準	認知症の有無	認知障害の程度**	障害者手帳	特記事項
男・女 ()	男	女	有・無	有・無	有・無	要介護・要介護1・2・3・4・5	J・A・B・C	有・無	HDS-R () 点 MMSE () 点	有 () 無 ()	1 医療機関 (病院・診療所など) 2 この施設 3 この施設以外の施設 (老人ホームなど) 4 自宅 5 その他 ()
男・女 ()	男	女	有・無	有・無	有・無	要介護・要介護1・2・3・4・5	J・A・B・C	有・無	HDS-R () 点 MMSE () 点	有 () 無 ()	1 医療機関 (病院・診療所など) 2 この施設 3 この施設以外の施設 (老人ホームなど) 4 自宅 5 その他 ()
男・女 ()	男	女	有・無	有・無	有・無	要介護・要介護1・2・3・4・5	J・A・B・C	有・無	HDS-R () 点 MMSE () 点	有 () 無 ()	1 医療機関 (病院・診療所など) 2 この施設 3 この施設以外の施設 (老人ホームなど) 4 自宅 5 その他 ()

*日常生活自立度 (要介護度) 判定基準
 ランクI: 何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており協力で外出する
 A: 居住の生活はおおむね自立しているが、介助なしには外出しない
 B: 居住の生活は何らかの介助を要し、日常生活が主体であるが座位を保持
 C: 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着脱入浴において介助を要する
 該当するすべての患者について記入ください。本調査票が不足の際は、コピーしてお使いください。
 **認知障害の程度
 HDS-R: 改良版三式簡易知能検査スケール
 MMSE: 簡易知能検査
 協力ありがとうございました

施設長殿

平成20年度厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業
 「利用者の視点に立った終末期医療と在宅医療のあり方とその普及に関する研究」

主任研究者 瀧沼 信夫 (東北大学 教授)
 分担研究者 蘆野 吉和 (十和田市立中央病院)
 有賀 悦子 (国立国際医療センター)
 川島孝一郎 (仙台往診クリニック)
 英 裕雄 (新宿ヒロクリニック)
 本家 好文 (県立広島病院)
 和田 忠志 (あおぞら診療所新松戸)

アンケートご協力をお願い

【アンケートのねらい】

本アンケートは、利用者の視点に立った施設における医療のあり方とその普及・促進のための基礎資料を得ることを目的としています。

個人情報保護法、疫学研究の倫理指針などに従い、プライバシー保護を徹底いたします。本研究は、東北大学医学部倫理委員会の承認を得て実施しております。

【返送の仕方】

同封の返信用封筒をもちいて、事務局までご返送ください。

この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

<お問合せ先>

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1
 東北大学大学院 医学系研究科 医療管理学分野
 伊藤道哉、金子さゆり、三澤仁平、尾形倫明、門馬靖武
 TEL: 022-717-8128 FAX: 022-717-8130

あてはまる項目に○、またはご記入ください 施設名

問1 在所者の状況

1年間(2007年度) 直近1ヶ月間(月)

定員	()名	()名
急変時の救急搬送者数	()名	()名
死亡数	()名	()名
うち看取り数	()名	()名

問2 看取りの方針

施設として看取りの方針を定めていますか はい いいえ

差し支えなければ、「看取りの方針」をお送りください

問3 貴施設における看取りのあり方などについて、自由にご意見をお書きください

ご協力ありがとうございました

貴施設のパンフレットと「看取りの方針」を、回収したご本人・ご家族調査票と共に、事務局へご返送ください。